

にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

Vol.23

2010年10月1日



編集・発行／松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL089-924-1111 FAX089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

胸を開けない胸部大動脈瘤手術：ステントグラフト内挿術



心臓血管外科 部長

梅末正芳

心臓から押し出された血液が最初に通るのが胸部大動脈という太い動脈です。この大動脈が太くなった状態が胸部大動脈瘤という病気です。これは喫煙や高血圧等により動脈硬化が生じ、弱くなった大動脈に血圧がかかることにより外側に膨らむことによって起こります。多くは無症状で、レントゲン写真やCT検査により偶然発見されることがほとんどです。ゴム風船と同じように血管も大きくなればなるほど破裂しやすくなります。大動脈破裂発症の場合は大量出血から多くの方が急死します。この為、ある程度以上大きくなった大動脈瘤では、破裂防止の為に無症状であっても何らかの処置・手術が必要となります。

1 一般的な大動脈瘤手術

従来から行われてきた手術は、拡大した大動脈の部分を人工血管に取り替える人工血管移植術です。自分の血管を人工血管に取り替えるには、大きく胸を開け、大動脈を一時的に遮断し、人工血管を糸と針で縫いつける必要があります(図1)。大動脈瘤の位置や性状により手術方法はさまざまですが、手術時間は長く(6~8時間)、全身へのダメージも大きく、手術後の回復に時間を要します。患者さんの状態(年齢、合併疾患等)によっては手術施行が不可能なこともあります。

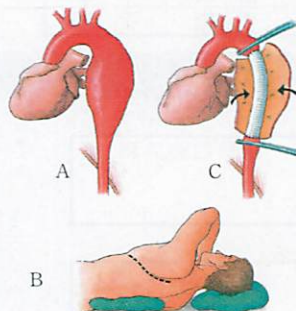


図1 従来の胸部大動脈人工血管移植術

2 ステントグラフト内挿術

胸部大動脈瘤に対する治療として最近ステントグラフト内挿術という手術が保険適応となりました。これは折りたたんだ人工血管(図2)を足の付け根の血管から大動脈内に挿入し、大動脈瘤の中で広げる治療法です(図3)。人工血管には金属の骨格が付いており、血管内で人工血管を広げ、形状を保持する役目を果たします。心臓から拍出された血液は挿入したステントグラフトの中を流れ、大動脈瘤に血圧がかからないようになるため、破裂の危険性を下げることが出来ます(図4)。胸を開ける必要が無く、手術時間も短く(2時間前後)、術後の回復も非常にスムーズです。大動脈瘤の位置や性状により、全ての症例に適応があるわけではありませんが、胸を開けて行う一般的な大動脈瘤手術に比べて、患者さんにとって非常にメリットの多い治療法といえます。今まで大動脈瘤手術が出来なかった患者さんでも治療が出来る可能性があります。当院でも2009年よりステントグラフトによる胸部大動脈瘤治療を導入しております。胸部大動脈瘤治療につき心配なことがありましたら遠慮なくご相談ください。



図2 ステントグラフト(ジャパンゴアテックス社、ゴアTAG)

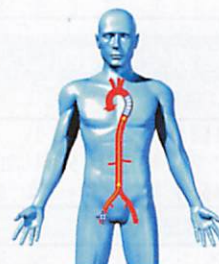


図3 胸部大動脈へのステントグラフト挿入

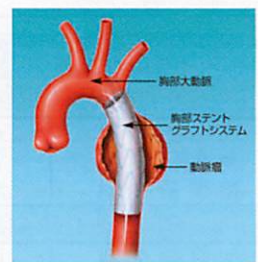


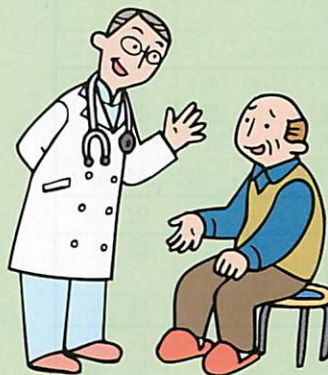
図4 胸部大動脈内に挿入されたステントグラフト

医療相談窓口について

医療相談窓口は、患者さん及びご家族等からの診療等にかかるご相談・ご要望・苦情についてお話を伺い、問題解決に向けお手伝いをさせていただきます。お気軽にご相談ください。直接窓口へお起こしいただくか、お電話でも承ります。

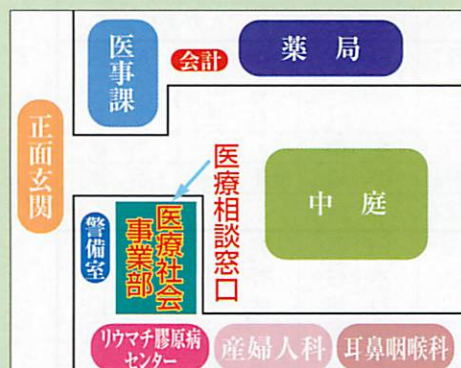
●相談内容について

1. 療養生活に関すること
 - 入院患者の転院や在宅療養に関する相談・支援
 - 緩和医療相談（がん相談）
 - 介護保険に関すること 等
2. 医療費に関すること
 - 医療費支払いに関する相談
 - 公費医療申請の手続きに関する相談 等
3. 診療上の問題に関すること
 - 診療・看護等についての相談
 - 医療安全に関すること 等



【ご相談はこちらへ】

場 所 医療社会事業部 医療相談窓口（正面玄関横）
 相 談 日 月～金曜日（祝日を除く）
 相談時間 午前9時～午後4時
 電話番号 089-924-1111（代表）
 089-926-9516（直通）



宮本 佳子薬剤師ハイチへ出発～ハイチ大地震被災者支援事業～

本年1月にカリブ海地域で発生した大地震（M7.0）で甚大な被害を受けたハイチ共和国に対する日本赤十字社の被災者支援事業により派遣要請された宮本 佳子薬剤師（日本赤十字社国際救援・開発協力要員）の出発式が8月9日（月）、正面玄関ロビーにおいて行われました。

宮本薬剤師は2006年10月から2009年1月まで青年海外協力隊のボランティアとしてパキスタンで活動された経験があり、帰国後は日本赤十字社の研修を受け国際救援・開発協力要員として登録されています。

今回の派遣先ではハイチのカルフール市にあるドイツ赤十字社病院の緊急対策ユニット（ERU）で、医薬品や資機材の管理等を担当されました。（派遣期間：8月10日～9月24日迄）

